

30年間連作障害なくエンドウをハウス栽培 「太陽熱・石灰窒素法」で環境にやさしい農業を 静岡県湖西市 佐藤嘉晃氏

平成17年の年末に湖西市白須賀にあるJAとびあ浜松・湖西営農センターの村木さんをお尋ねした。湖西市は自然豊かで温暖な気候の町で、莢と実の両方が味わえるサトウエンドウ、セルリーの施設栽培が盛んなところである。

管内は、サトウエンドウの生産農家が54戸(8ha)、セルリー農家は25戸(12ha)である。「太陽熱・石灰窒素法」により土壌消毒と土づくりをおこない、サトウエンドウのハウス栽培をしている佐藤嘉晃さんの圃場を村木さんの紹介でおうかがいした。

サトウエンドウのハウスは3棟で圃場面積は27a。すぐ近くを東海道新幹線が通り、車窓からも見える位置にある。佐藤さんは奥様と2人で30年間、臭化メチル、クロルピクリンなどの化学土壌消毒を一切しないで、「太陽熱・石灰窒素法」のみで連作がむずかしいサトウエンドウを連作している。

5月下旬サトウエンドウの収穫終了後、国産石灰窒素を140kg/10a施用して、トラクターで約30cm耕起してマルチする。

灌水チューブで1回/20日灌水する。これを6月～8月の3ヵ月間実施し、その後8月下旬に牛ふん堆肥を約5t/10a施用する。9月にサトウエンドウを定植し、11月から5月まで、均質な品質のすぐれたサトウエンドウを生産している。

同行した技術顧問の方も「こんな素晴らしいエンドウの栽培を見たのは初めてだ」と絶賛しておられた。

臭化メチルの使用ができなくなった今日でも、自然の力を利用して「環境にやさしい農業」ができることを佐藤さんは見事に証明している。

素晴らしい技術を見せていただいたことを謝辞し、暖かい冬の光を浴びて、湖西市をあとにした。

